

第4章

家事・育児の外部化に関する実態と意識

大和 礼子

1. はじめに

この章では、①家事・育児の外部化の実態と抵抗感と、家事・育児サービスの利用に影響を与えていると考えられる②家事と育児の違いに関する意識、③育児における母親の役割と父親の役割についての意識、④望ましい家事水準についての妻の意識と夫の意識のそれぞれについて、インタビューの結果を紹介する。

2. 対象者のプロフィール

まず、妻が専業主婦である家族として、育児に関して親族ネットワークをおもに活用している家族（Aさん）、親族ネットワーク以外に近隣ネットワークや育児サービスを活用している家族（Bさん）の2例を紹介する。さらに妻がフルタイムの職業を持っている家族（Cさん）の例を紹介する。

3. インタビューの結果

(1) 家事・育児の外部化の実態と抵抗感

(a) 親族からの援助

【Aさん】

〈妻〉

「自分の実家に行くよりも主人の実家に行くことの方が多いんですよ。（夫方の）おじいちゃんおばあちゃんの家が、幼稚園の近くなんで。週1回、水曜日のお弁当のない日は、だいたい幼稚園終わったらもうそのまま（子ども）2人おじいちゃんおばあちゃんのところへ遊びに行って、夕方帰ってきてうちでご飯食べるっていうことが多いです。…特に最近はそうですね。（それは、子どもたち）2人で行けるようになったということがあります。…もう子どもが生まれてからは、毎週土曜日、親（おじいちゃん・おばあちゃん）が用事のない限り、（夫の）実家に行ってご飯食べてるんですよ。（夫妻と子ども2人の）4人で行って、『今日のご飯はなにー!』っていう感じで（笑）毎週土曜日はだいたい、今もずっと」。

〈夫〉

「食事だけじゃなくて、たまに嫁さんと私でちょっと出たいという時は、うちの実家

に2人預けて行ったりとかいうのはありますね。…ほとんど嫁さんの服買いに行くとか、その時子どもがいると「まだ〜？」ってなっちゃうんで、その間ちょっと実家に見てもらおうとかいうことはありますね。月1ぐらいじゃないかな、ちょっとだけ見といて〜っていうのは。子どももじい、ばあにはなついてるので、じいばあとこ行く〜っていうので行って、その間嫁さんがちょっとゆっくりできたりとか。平日なんかはそういうのはありますね。…幼稚園への送り迎えで雨降ったりとか、やっぱり自転車で行けない時なんかは、親父が車で迎えに来てとか、それ非常に助かってますね。…うちの親父に朝電話入れて『お父さん迎えに来てー』ということで、送り迎えしてもらったりとか。

【Bさん】

〈妻〉

「(自分の両親は) 電動自転車で20分くらい (のところに住んでいます)。上に (子ども) 2人乗せて (笑)、まあ今はちょっと自転車は冬なんで乗ってなくて…、土日のどっちかにたいてい行ってますね。車やったらもう10分ぐらいで行けるとこなんで。食事…昼ご飯をもらいにというか。家族総出ですね。… (実家では) 私にとってのおじいちゃんとおばあちゃんがまだ健在なんですけど、実家の母がおじいちゃんの介護をしています。…おじいちゃんの介護が必要になるまではほぼ何かあると、母がこっちに来てくれてたんですけど、ちょっと今はこっちに来ることも厳しくなってきたんで、今はちょっとね援助的に厳しいものが…。もし自分がちょっと体調が悪くて病院に行きたいとかのときは、もう実家に帰るよりはマンションの人に頼りますね。

…夫の両親はちょっと遠くて中国地方の方なんで。まあでも何かちょっとどっちかが入院とかなったら、自分の親のとこより、泊り込みで夫の親に来てもらう…まあ2人 (ぐらし) なんで。ちょっと上の子が入院することがあったんで、その間は (中国地方の) おばあちゃんに来てもらって、ずっと下の子を見といてもらいました。

…姉が2人いて、一番上の姉は駅でいうと2駅なんですけど、車だったら30分くらいのところ。…何かあったら、母の介護の援助の方はその姉がすべて手伝ってくれてて。…もう1人の姉は、もう自転車で10分ぐらい。この下の子と同年の子どもがいるんで見といてもらえる…」。

【Cさん】

〈妻〉

「(妻の両親は四国に住んでいて、ここまで来るのに) すぐバスとかに乗っても4時間ぐらい (かかります)。(Q: 子どもが熱を出して保育所に預けられないときは?) おもには私の母に来てもらってます。(Q: 例えば、前の晩に「熱出しちゃった」とかかって電話をして、次の朝早く出してもらってとか?) そうですね。それか、大体はなるべ

く早く伝えて、もう夜のうちに来てもらって、次の日私が朝から出勤できるように備える。でもね、向こうを6時ぐらいが最終やと思うんで、言うのなら、もう昼ぐらいに言わないとダメなんで。だから、母親が無理なときは、夫の母に頼んだこともあります。6月ぐらいまでは、毎週のように四国から来てもらってた。だから、(私の)母がくたくたになってきてたから、いい加減、病時保育に預けないと思って申し込みだけしてるんですけど、いざ『もう預けなあ』って思ってから、息子が夏になって病気が減ったんで、まだ預けてないんですけど。大阪に住んでいる夫の母に助けてもらったのは2〜3回やと思うんです。何か実家の方が言いやすいから何回か来てもらったら、息子も私の母の方に懐いて、大阪のお母さんにはまだ泣くんですよ。だから、余計頼みづらくなって。で、大阪の方は、お父さんがまだ働いてらっしゃってお母さんが手伝っていらっしゃるから、忙しいかなあとって」。

(b) 近隣や友人からの援助

【Aさん】

〈夫〉

「幼稚園への送り迎えで雨降ったりとか、やっぱり自転車で行けない時なんかは、…嫁さんが車の免許ないもので(マンションの)同じ階の一番端(の家族)も同じ幼稚園へ行ってるんで、その子のところに乗せて行ってもらったりもします。でもやっぱりそうなる気遣いなので。うちの親父に朝電話入れて『お父さん迎えに来てー』ということで、送り迎えしてもらったりとか」。

【Bさん】

〈妻〉

「午後3時から、もうたいてい誰かのうち(へ行く)か、お友達が来るかで、夕飯の準備はもう交代制でたいていやってます。そうですね、誰かんのうちに何人か集まって1人ずつ親が帰って、ご飯の準備をしていくっていう形が多いですね。(そういう形で集まるのは)だいたい、えーっと4家族ぐらいが平均で、まあ子どもみんな2人ずつ。上の子が2歳半くらい(の時)、…外に出て公園がまあ一緒なんで、そこでまあ同学年ぐらいの子とは仲良くなって。(集まる親が)4人だったら、(それぞれ)1時間くらい。1時間で、みんなご飯作って、洗濯物とか・ちょっと気晴らしになるんで。まあその会場の人(会場に残る人)はその後すごい大変なんですけど…。まあでもその間に親はもう喋ってるんで、ストレス解消になる…。だからこのマンションの人は、ここに住んでないともうやってられないかなって感じですね。(Q:そういうグループって、その、他にもあるんですか?)あ、みんなだいたいあると思います。(公園など)外に出てくるような人はそうです。…まず下の子が生まれるまではまだお昼寝とかで時間が

あったんですけど、やっぱり下の子が生まれたら上の子は遊びたい、下の子はもう寝かしたい…それで、ご飯作りに行くっていか下の子を寝かしに行くってパターンが。(Q:じゃあ交代で抜けるわというふうになっていったんですか?)そうですね、まあ絶対全員そろっていることはないですね、誰かちょっと用事で。(Q,それは別に何曜日が誰とか、誰の家とか決まなくて、自然に?)まあ空いてる人、その4人といっても元々もう何人もいるんで、その中の4人って感じで。いつも同じ4人ではなくて。まだ仕事してる人とかもいて、パートで出て、普段は幼稚園行ってる間にパートをしてるんですけど、春休みはお弁当持たしてこの誰かの家で見てもらうっていう。でもちゃんとみんな同じぐらい預けるし、預かるしっていうのはあるんで、誰が損してるとかはなく」。

(c) 育児サービスの利用と抵抗感

【Aさん】

〈妻〉

「お兄ちゃんが幼稚園です。それ以外(幼稚園の預り保育、保育所、保育所の一時保育、ベビーシッター、保育ママ、民間の一時預かりの託児所、ファミリーサポートセンター、幼児教室、習い事、市の親子教室、託児付の母親向けの講座)は、利用してないです」。

【Bさん】

〈妻〉

「(習い事とかは)今は、3つぐらいしてて。1つは、音楽教室がマンションで安くやってるんで。あとは何ていうんでしょう、プレ幼稚園みたいな、公民館とかでやってくれてると、あともう1つはプールに。週1回ずつですね。音楽教室は個人的に人が(このマンションの)家の中でやってはるんですけど、あと何個かいろいろ、習字だったりそろばんだったり(の教室もあって)、マンションの集会所に来てくれてるんで。マンションのその集会所を、その業者が借りてるっていう感じで。費用は1回700円ぐらいですね。音楽教室はもう送って行って、あとは帰りに迎えに来るだけ。プレ幼稚園も、送って行って最後20分ぐらいだけ親が一緒なんで、ほとんどもうお預け保育ですね。音楽教室はマンション内だし、(プレ幼稚園をやっている)公民館もまあ歩いて15分ぐらいで。時間は1時間半ぐらいお預け…。はじめたのは3歳からですね。

…(その他の利用したことのある育児サービスとして)幼稚園。幼稚園の延長保育はまだ使ってない。(保育所、保育所の一時保育、ベビーシッター、保育ママ、ファミリーサポートセンター)はないですね。(民間の一時預かり、例えばデパートの託児とかは)あったかな。ちょっとあったかもしれないですね、ちっちゃい頃に。(そういうこ

とについての抵抗感は) 1時間ぐらいだったら、本人が嫌がらなければ…。

(公民館のプレ幼稚園とか利用して)良かったですね。子どもが集団生活に慣れたのと、少しずつ親と離れる、いきなり幼稚園で離すじゃなくて、少しずつ親がいなくても大丈夫だよっていうことは教えてあげたいって言うか」。

【Cさん】

〈妻〉

「(育児サービスで利用しているのは)認可保育所。あとは病時保育を今度頼もうかと。(Q:保育所に入れるときに抵抗感ってありました?)保育所に入れてまで働くななんてみたいなのは思いました。離乳食もほんま食べなかったんで、母乳ばかりだったんで、哺乳瓶も嫌がったんで、そういうのが心配でした。入れ始めて数日してから断乳したんです。息子はスッて離れた。(Q:保育所を利用してよかったと思っていることは?)1人やったら離乳食を進めるとか、いつミルクを減らしていくとか、育児に関して分からないことだらけなんですけど、保育所やったら、先生が『次、こうしましょ、あぁしましょ』ってリードしてくれるんで、そういうメリットと、あと息子自身がすごく楽しそうで、人に対して、保育所に行き始めてから、よその知らんおばちゃんやおじちゃんにも『バイバイ』って言ったりするようになったとかですね。規則正しい生活になるし…。…でも、お母さんが一番やろうなあっていうのはありますね。息子は私にべったりなんで。私自身が甘えん坊やって、母が仕事でいないとき寂しかったんで、お母さんが傍にいてあげたら、子どもは幸せなんかなあとと思いますね。でも、今、預けてることに別に罪悪感とかはないです。かえて預けてる方がいいかなあと今は思います。いろんな刺激が息子に入って。預ける前よりはよかったと思うように…」。

(d) 家事サービスの利用と抵抗感

【Aさん】

〈妻〉

「まあうちも利用したことありますけどあの、一番上の子が生まれた時、材料持ってきてくれるのあるじゃないですか。主人が会社に行ったら子どもと2人っきりなんで。生まれてすぐとか外に出すのあれやったんで、じゃあ最初だけちょっと試しにしてみようかっていって。調理は家でしますけど、材料だけ持ってきてもらったりとか。あと自分の体調が良くない時とかは、ちょっとスーパーでコロケ買って来るわとか、そういうのもあるので。(Q:これらの利用について抵抗感は?)別に抵抗はないです。それが毎日ってなるとちょっとあれですけど。具合が悪いとか、もう今日はもう一日忙しくて何もできなかったからって言う時とかもあるし。

…(でも毎日利用するというのは)自分的にはしたくないですね。まあもしかしたら

そっちの方が安いのかもしれないけど、でもなんかやっぱり作ったものを食べさせてあげたい、子どもに。…自分で作るってなったら野菜も入れてとか、お肉があつてとか、お味噌汁つけてとか、やっぱりバランスを考えてある程度作ろうかと思うんで、そういう面ではやっぱり、作ったものを食べさせてあげたいっていうのはあります」。

〈夫〉

「(Q:店屋物とかに対する抵抗感は?)まったくないです。ずーっと続くとあれなんでしょけど。(僕自身は)まったくないんですけど、本人(妻)が嫌がるのでそれじゃあ作ってっていう…。(Q:手作りがいいとかいう考えについては?)そうですね、当然手づくりの方が良いんですけどね。もう今日はしんどいからカップヌードルねって言われてもそれしょうがないから。毎日続くと嫌ですけど。週1回カップヌードルで勘弁してっていうと、それはそれでいいよと。ただ量はたくさん置いておいてねと(笑)…(掃除サービスを頼んだりすることについては)たぶん本人(妻)が嫌がるんでね、あんまりこう(家の中に)入って来るのは。ただ食器乾燥機、洗い乾燥機でしたっけ?あれは欲しいみたいなことを(妻が)言ってる…。そういうのは、楽になるからいいのかなあと。なんでも買ってしまうのはちょっとよろしくないなと。まあでもそれで何か楽になるなら、それはそれでいいのかなと」。

【Bさん】

〈妻〉

「土曜日の朝は、そうですね10時ぐらいには出掛けて、だいたいあの…なんていうんだろう、スーパーのおっきい、大型スーパーに行くことが多いですね。買い物も兼ねて。遊びもあるんで。お昼は土曜…土・日は外食が多いです、そういうスーパーにあるお店とかで。

(出来合いの食事を買うとかそういうことについては)全然してもいい。抵抗はないですね。掃除とか換気扇の大掃除とかは業者に頼んだり、たまに土日は出来合いだったりお寿司買ってきたり、土日は基本的に主婦も休みたいと思ってるんで。土日は結構手を抜かしてもらってますね。もう主人にも土日は私も休みたいと言ってるんで。(Q.それはご主人も理解されていますか?)そうですね」。

〈夫〉

「(家事サービスの利用について)掃除はねえ、お金がかかる。もうちょっと努力すればできるのに。買い物サービスは今やってると思うんですよ、コープかなんかで。週1回ですけど、宅配とか。外食とか買って来たお惣菜を食べるとかそういうことについては全然抵抗はないです。食費かかるのかなという気もしますが、まあ、そこまで

(は思いません)。手作りにこしたことはないですけど、別にこだわりはない」。

【Cさん】

〈妻〉

「帰宅は6時に最寄り駅に着くので、6時過ぎに保育所に迎えに行って、6時半ぐらいに家に着いて、7時前ぐらいにご飯。買い物はしないんですよ。コープの宅配で送ってもらって。で、ご飯は、帰ってきてからは作らないんですよ。息子が「遊んで、遊んで」と言って、まわりついでに作らせてくれないのをいいことに。その前の晩に元気があったら、前の晩に作っておいて、それをチンして食べるんですよ。で、何もない時は保育所に行く前にちょこちょこ買って、買った物を家に置いて。『買い物せず、すぐ迎えに来てください』って言われるんで。直接は言われません。プリントにたぶん書いてあったと思うんですけど。だから、買い物するときは、こそこそって一旦帰ってきて、何もなかったように保育所に迎えに行く。何か他の保育所もそうらしいですよ。ちょっとぐらい見たいってほしいんですけど。

土日もそんなには出かけてないです。家において、洗濯とか掃除とかをしたりとか。外食は、息子が生まれてから、息子とは行ってないと思うんですよ。夫が特に、息子を連れて行ったら絶対ぐちゃってするでしょ。だから、私たちが大変やから、そんなんは行きたくないらしくって。元々どっちかいたら、家にいる派です。(Q:じゃあ、朝も昼も夜もご自分で作ります?休みの日?)いや、作ってないです。昼は買ってくるとかですね。

お惣菜を買ったり、配達してもらうことに関しては、抵抗がないです。(Q:家政婦さんに家に来てもらうとか、ベビーシッターに来てもらうというのは?)いい人がいれば、そんなんも利用したらいいなあと思うんですけど。でも、ちょっと何か心配っていうのもありますね…」。

(2) 家事と育児の違いに関する意識

【Aさん】

〈妻〉

「(家事と育児の違いについて)割合が違うって言ったら変ですけど、メインになってるのがやっぱり育児、で次に家事になるかなあ?ご飯とかそういうのもまあ当然大事なんですけど、どっちか優先するってなったら絶対子どもの方なので」。

〈夫〉

「(家事と育児は)全然違うと思いますね。家事はもう淡々とするだけで、育児がどれだけバラエティーに富ませることができるのかなと。遊ぶことと勉強させることと、

親に甘えさすところと叱るところと。かなりいろいろ考えながらやんなきゃいけないんだろうなと。これが一番大変だと思いますね。家事は全然大変だと思わないですよ。育児がすごい大変なので、それを嫁さんに押し付けるのもどうかと。だからなるべく休みは一緒にいて、いろいろ教えてあげたりもしたいなあと。家事の一部じゃないと思いますね。

…(子育てでつらいと思うことは)今のところはないんですけど、仕事してる方が楽かなって思う時はありますね。ゴールデンウィークだとか長い休みになりますよね、その間に子どもと遊んで、やっぱりこう『パパあれしよ～あれしよ～』っていうのがいっぱい出るんですよ。それで若干めんどくさいなあって思う時だとか、またあそこ行くの～?とかいうので、結構しんどいなあと思う時もあり、もう仕事してる方が楽かなあって思う時もあるので。(ずっと子どもと一緒にの妻は)大変だと思いますよ!間違いなく大変ですわ。家におるから楽なんてことは一切思えないですね。給料払ってもええぐらい、年収変わらんぐらいの働きになるんじゃないですかね。子どもの世話は大変だと思いますね。毎日いろんなことさしてあげないといけないんで、それ考えるだけでも大変だと思うんでね」。

【Bさん】

〈妻〉

「(家事と育児って)違いますねえ(笑)。…子どもが出来たら絶対あの専業主婦っていうか、もう子育ては限られてる時間で、保育園に預けてまで働きたいってことは思わなかったんで。…幼稚園に行くまではもうベツタリ。あの今だけ、特に男の子なんで」。

〈夫〉

「(育児については)子どもともっと遊びたいですね。平日も、何があったか聞くぐらいの時間は欲しいですけどね。(家事についてもっとやりたいということは)それはないですね。今ぐらい。(家事と育児の違いについては)育児は遊んでる感じですからね。育児はしゃべったりして楽しいですけど、家事は黙々と。(子育てをつらいと感じたことは)ないです。寝かしつけるって揺らす時に手が疲れる(くらい)」。

【Cさん】

〈妻〉

「(Q. 家事と育児は全然違うことですか?) いや、いっしょくたですね。家事と育児…。でも家事がなければもっと幸せです。(笑) 育児の方が好きですね」。

〈夫〉

「(Q:時間があれば、家事にもっと関わりたいですか?) 関わりたいとは思わないですね(笑)。(Q:育児については?例えば毎日6時に帰れたら?) 子どもと遊びたいのは遊びたいですね。それが育児かどうかは、ちょっと分からないですけど。見てたら、やっぱり可愛いと思うんでね。遊びたいなあと。まあ、帰ってきたら、やっぱり寝てますからね。息子に何かするっていうわけじゃなくて、ただ単に遊べるんだったら遊びたいなあと。

(Q:家事と育児は違うことですか?) うーん、むずかしいですね。…まったく別物ではなくて、リンクしてる部分があるかなあと思ってますね。

(3) 育児における母親の役割と父親の役割についての意識

【Aさん】

〈妻〉

「たまたまパパの前で悪いことしたら、私の方がパッと先に怒ってしまうんで、だからまあ『もっとパパきつく怒ってや!』っとは言うんですよ、悪いことしたら。(そうすると夫は)『いや俺より先にママが言うから。2人で攻めたらあかんやろ』って言って。なんか『俺はこう黙って待ってんねん』って。まあ(子どもに)泣きついて来られるのが(夫は)嬉しいみたいなんですけど。たぶん(子どもは)ママの方が怖いと思ってるんじゃないかと(笑)。ママまた怒ってるとか3人で言ってるから、パパと子どもとで。ママから角でてくんでとか言ってるんでね。

(お父さんの役割・お母さんの役割という)今の状態では、まあそんな差がないって言ったらあれですけど…。今何が違うかって言ったら、子どもから見たらたぶんお母さんは、料理とか掃除とかする人とか、パパは遊んでくれる人みたいな感じで、子どもは受け取ってるみたいなんです。ママは身の回りの世話をしてくれたり、パパがいない間一緒に遊ぶ人、で休みはパパが遊んでくれる人っていう風に子どもは思ってるみたいなんですけど。たぶん大きくなったら、ねえ、それこそ年頃になってきたらたぶん、男、女で分かれてくると思うんで。お兄ちゃんは、何か相談があるとかだったらたぶんパパの方に行くやろし、この子(娘)はたぶん私の方に来るやろなーっていう…大きくなるとその辺で分かれてくるかなっていうのはあるんですけど、今はそんなに…うーん、その平日と休日との違いがあるだけで」。

〈夫〉

「(Q:父親にしかできない役割っていうのは?) ん〜…あるでしょうね。体使って遊ぶとかその辺りでしょうね。戦いが好きなので。その辺はやっぱり。まあ嫁さんもやるんでしょうけど。(お母さんにしかできない役割っていうのは) それもあるでしょう

ね。何かって言われると、なんだろう。例えば手先器用なんで嫁さんが。折り紙でこんなん作ったりとか、そういうことはすごいまいなあとと思いますね。

…(Q:お父さんだから厳しくとか、お母さんだから優しくとかいうようなのは?)
逆になっちゃってるんで、もうちょっと厳しくならないかん様な気はするんですけど…。うーん、最近甘いとよく言われるので、もうちょっと一緒にいて怒ることも覚えなないと。まあとにかく可愛くてしょうがないんです。特に下の子がね、やっぱりもう可愛い、可愛いで。上の子と遊ぶと、なんか買ってあげようかな～っていう。そういうのが多くて怒られます。

…甘いんですけど、こういうもの(子どものおもちゃ)を買って一緒に遊びたいなど。あのねえ、特に上の男の子がやりたいことは、(自分も)やりたいんですよ。昔自分もそれがほしかったから。仮面ライダーの変身ベルトほしかったんですよ。で(子どもが)『ほしい～』言うたら『あ～わかるな～!』ってゆうので、じゃあ1個と買い始めるといろいろあるんですよ、あれもこれも。その辺を買い与えてしまいたいんですけども、それはいかんと。そこで(妻から)ストップがかかったりするんで、『なんでや!?'っていうのもちょっとあって。難しいですね、そこは。…お金かかるというよりも、なんでも買い与えてしまうと良くないということで、嫁さんはやっぱりその辺は厳しいんでね、当然ながら。やっぱりあれもこれもと、ほくが欲しくなるんですよ(笑)。ポケモンの人形集め始めるといろいろ見に行って、あったら『これ買ったろうか』みたいな。で『これでこうやって遊ぼうか』みたいな。…あんまり今趣味がないので。子どもと遊ぶのが趣味なもんで。…自分が今やりたいことっていうのが、個人的に1人でやりたいことっていうのが、ないのか…今思いつかないんですけどね。子ども遊んでる方がいいのかなあと」。

【Bさん】

〈妻〉

「もう土日はもう夫は『やっと会えた!』って感じでもう子どもにべったりで。…たまたまに土日に子ども2人を置いて(妻が出て)行って、(夫が)1人で子ども2人見てたら、それがすごい大変だと思うみたいなんですけど。でもこっちはもう慣れてるんで。その、家事をしながら育児は普段のことなんですけど、主人にとっては育児をしてたら家事はできないっていう風に思うみたいで。やっぱり男の人は育児ってなったら、真剣に育児をするというか、子どもにつきっきりで遊んであげる。子どもも父親と遊ぶ方は手抜かれてなくて。子どももね、やっぱり父親にはちょっとわがままになるというか、聞き分けがね。

育児については夫は、感情じゃなくなっていくんでしょう。客観的に見れるんで、たまに『そういう怒り方はしたらだめだよ』っていう風に言われます。家事に関しては

そんなに言われたりはないですね。どちらかというと育児の方に。

…(夫は)『産んでくれてありがとう』っていうことはよく言いますね。子どもがもうすごいなんか愛しいらしくて、趣味がないんで生きがい子どもっていう。常に幸せて、この2人を見てるのが。普段やってることに感謝は、言ってもらえることはないんですけど。平日、仕事から帰ってきて、子どもの顔見るのがホッとするというか。寝顔っていうのはかわいいでしょ、わがままでもなく。それを見るたびに、まあ羨ましがられますね、ずっと一緒に居れることが。そんなこと言ってるんですけど、土日会えて、でも限界が来て怒る時もあるんですけど」。

〈夫〉

「(Q:父親にしかできない役割、母親にしかできない役割って言うのは?) ありますよ。(Q:父親にしかできないって言うのは?) 簡単に言えば男の子の遊び。虫取りとかね、スポーツとか。乱暴な遊びとか。その辺はお父さんから学ぶべきだと思いますし。あとは何でしょうかね。(自分の父親も) 虫取って来てくれましたしね。キャッチボールとかも。もうちょっと大きくなってからですけど、結構毎日ぐらいしてたんで。という意味ではお母さんは出来ない。まあ(妻は)元ソフト部だからできるんですけど。(お母さんの方にしかできない役割って言うのは) 心の教育というか、人に対する優しさとか、精神的な不安とかを解消するとか、そういうのは普段から身近にいるお母さんの方がねえ。子ども同士のしっぺいけな事とかした時にすぐ怒れる、直せるのはお母さんの仕事だと思います。寝る前とか全然違いますからね。遊ぶ時は寄って来てくれるんですけど、いざ寝るとなると『お母さん』というのがあって。パニックに泣く時があるじゃないですか。僕がなだめてもねえ、お母さんにしかなだめられない時というのが時々あるんで。まあそういうの違うんやろうなあと。嫁さんが働いても、身近にいる時間が違って逆転しても、たぶんその辺はお母さんは特別なものじゃないかと思うんですけどねえ。

(今の趣味みたいなのは) 子どもと一緒に仮面ライダー…結構親の方がはまって。結構ねえ、大人向けに作ってあるんですよ。そういう人たちのために。子どもは戦うところが好きなんですけど、それ以外のところがおもしろい。たぶん子どもには理解できないと思うんです。お父さんが見て楽しめるようになってる。お父さんもねえ、昔は楽しみましたし。そういった意味での趣味って言うのは、昔はゲームとかね、野球したりとか、やってはいましたけど今はないですね。

…(妻からの期待としては) もっと子どもにカタカナを教えるとか、男の子らしい遊びを教えるとかを…。虫を取りにいて標本を作るとか。それと恐いお父さんでいてほしいとか、そういうのも。どうしても土日しか会わないんで」。

【Cさん】

〈妻〉

「(Q：父親にしかできない役割ってというのは?) 息子が男の子なんで、もっと大きくなってきたら、体のこととかでお父さんに相談できることはあると思うんですけど。それとか、体力的な野球とか、ああいう遊びとかは、お父さんの方が得意かなあと。(Q：母親にしかできない役割は?) 母親の方が甘えられる。甘えられるのはお母さんって言う…。父親よりも甘えられる対象として見てくれるかなあとと思います」。

〈夫〉

「(Q：子どもに食事をさせるのは?) ほとんど妻ですね。(Q：お風呂に入れるのは?) 妻ですね。(Q：休みの日は?) (子どもが) 嫌がるんでね、基本的に。妻がいると、優先順位は絶対妻なんです。だから、僕が何かしても、全然嫌がるんでね。例えば、今日なんか僕が保育所に迎えに行きますが、そのときがすごく分かると思うんですよ。保育所に迎えに行くと、すごい喜ぶんですよ。『うわあー！パパ来た、うわあー！』って言って来て、帰ってくるじゃないですか。で、妻を見るでしょ。もう僕なんかそっちのけで、またすごい喜んで、あとは僕は無視。なんで、そこがもうわかるんですよ。それまではね、どこに行っても『うわあー』って、すごい仲良くするんだけど、妻がいると、もう僕には見向きもしない。(Q：じゃあ、夜寝かせることも?) 妻ですね。(自分と) 寝ないですね。まあ妻がいなかったら、寝るかなとは思いますが、いる間は無理ですね。妻と僕がいて、妻じゃなくて私が寝かしつけるということは、多分ないんじゃないかな。

(Q：父親にしかできない役割ってというのは?) 今のところ実感してませんね。『これは俺やから』っていうのはないですね。(Q：母親にしかできない役割は?) 今、(息子は) 妻の方に寄って行ってるんで、そういうところでは必要なあと。でも、妻がいなければ僕のところ来ますから。まあ、いても寄って来たりはしますけど。何か具体的に、これが妻の役割だっというのはない」。

(4) 望ましい家事水準についての意識

【Aさん】

〈妻〉

「(Q：育児に関してもっと子どもに関わりたいたいということについては?) 今はこんなもんでいいかなって思いますね。(Q：家事については?) 料理をもうちょっと凝らないといけなかなっていうのは思いますね (笑)。なんかワンパターンになってきているというか、ゆっくり本を見てこんなのしたいなっていうのはあるんですけど、いざそれをするのに下ごしらえしてとか手間を考えると、意外と時間がないんですよ。幼稚

園の送り迎えして、(子どもの) 友達が来たらそっちに構うとかになるので…、今日も出来なかったなーでなんかワンパターンになってきて…。あとおやつ作ってあげたい。

…毎週ふき掃除するっていうのもう私の中では決まってるけど、主人は、いや毎日掃除機してんねからそんなんでええやんって言うんですよ。『え、今週も拭き掃除?』って(夫が)言うから、『もう絶対するよー』とか言ったら、『いやもう別に来週でええんちゃうん?』とかって言うてるから、たぶんその辺は不満があるんじゃないかなーと。(夫は)『みんなで外へ出かけよう、早く行こうよー』っていう感じなんですけど、でもまあ、バーっとふき掃除とかしても1時間ちょっとぐらい、ゆっくりやっても1時間半ぐらいなんで、家でダラダラしてる時間をもうそっちに回してしまえば…」。

〈夫〉

「…毎週掃除…その掃除機だけでいいじゃないって思うんですけど、(妻が) ふかないと気済まなくて。それはまあ週1なんですけどね。…(Q: 自分自身の家事への参加については?) 今でちょうど良いぐらいかなと思ってるんですけどね。

(Q: 子育ての方は?) 子育てねえ…ん～最近甘いとよく言われるので、もうちょっと一緒にいて怒ることも覚えないと。まあとにかく可愛くてしょうがないんです。特に下の子がね、やっぱりもう可愛い、可愛い。上の子と遊ぶと、なんか買ってあげようかな～っていう。そういうのが多くて怒られます」。

【Bさん】

〈妻〉

「あーもっと余裕があったら、もっと子どもと、特に上の子と、なんだろう…もっとなんか勉強めいたこととか。…そうですね、1日がすごい早い。でやっぱり料理も、すごい凝った料理とかはなかなか出来なくて、同じ…まあ子どもが好きなものばかりなるんで偏ってますね」。

〈夫〉

「(Q: 妻の家事については?) このままでいいです。(Q: 妻の育児は?) それも十分だと思います。(Q: 自分の家事・育児への参加については?) このぐらいで勤弁してくださいという感じですね」。

【Cさん】

〈妻〉

「家事は基本的に嫌いなんです。ただ、息子が少食なんで、もっと息子が気に入るような品を揃えて食事に出してあげたいなあと思うんですけど、時間がないのを理由にあま

り作ってなくて、ワンパターンなものばかり食べさせてきてるんで、それだけが…。息子とはそんなに私らのものを食べないんで、煮物をやっぱり用意しないかなあと。(Q:時間があつたら、育児にもっと関わりたいと思いますか?) そうですね。息子ともっと遊びたいっていうときもあります。でも、これも、今仕事してあまり関われないから、こう思うんやと思うんですけどね」。

(夫)

「家事ねえ。全くしないことはないと思います。出来る範囲では、してるかなあと。食器洗い乾燥機にセッティングとか、洗濯とかね。機械を使うことですね。機械ものが好きというわけじゃなくて、楽というかね。洗濯物を畳んだりとか。でも、Tシャツは畳まないですね。畳み方がよく分からない。妻と僕の畳み方が違うんで。それ以外はほとんど一緒だからね。で、僕は基本的にやるけど、指示されるのが嫌なんです。『こうしてくれ』と言われてたら、嫌なんです。自分のやり方でやっていいものに関してはやる。だからTシャツの畳み方は違うんで、それは畳まずに、入れとくだけですね。

(食事の後片づけと洗濯は) 手伝いますね。掃除は妻がしますね。私、散らかってても全然。ゴミの中でも構いませんので。

…(妻に対して家事を)『もっとしてほしい』っていうのはないですね。手を抜けるんだつたら、夫婦で手を抜きたいっていうのがありますね。(Q:たとえばお惣菜を買ったりとか、外注するのは?) 僕、100%外注でも構わないですから。(Q:例えば、家政婦さんを雇うとかは?) そんなんでもいいのかなと思うですよ。(Q:抵抗ありません?) 抵抗ありますね。だから、どういうことをしてくれるのかが、あまり分からない。信用できる人がちょっといないかなあと。信用できる人だつたら、全て任せれるんだけど、やはりちょっとまだ、そういう人が周りにいないかなあと。(Q:惣菜を買うなんかは?) 全然いいですね。僕が学生時代は炊飯器がなかったですからね。(Q:外食すること、配達してもらうことは?) 全然いいですね。(Q:例えば、病気のおばあちゃんに頼まないでベビーシッターだつたらどうですか?) 子どもが慣れるかなっていう、その心配なんです。病時保育とかに預けたいなっていうのはあるんですけど、かわいそうっていうのがあるんですよ。だから、いろんな制度を使って、お願いしたいなっていうのはあるんだけど…。子どもがかわいそうっていうのが。育児も手を抜けるんだつたら、抜きたいなあと。そんな全部を任せるんじゃないかと、例えば今日なんかでも保育園に預けると。 (Q:両方とも手を抜きたいという考え方についておつれあいには?) 理解してないでしょうね、妻は…。(Q:おつれあいは手抜き派じゃなく、手をかける派?) と思いますけどね。僕は利用できるものは、した方がいいかなあと。僕は妻が疲れてたら、『もう利用したらええやんか』というふうには言いますけどね。(Q:今の家事育児の分担は、公平だと思いますか?) 妻の負担は大きいでしょ

うね。公平じゃないですね。任せてるところが大きいですから。(Q：おつれあいからもっと家事や育児に関わってほしいと言われたことは?) 言われたことはないと思うんですけど」。

4. まとめ

これら3つの例から次のようなことが伺えた。まず、親族(特に親)は重要な援助源であり、近くに住んでいない場合でも、子どもが病気といった緊急の場合には親に援助を頼むといった「遠距離育児援助」が行われていた。親族以外の育児援助は、利用している家族は保育所(これは妻が職業を持っている場合に利用されている)、おけいごと・幼児教室・近隣での預けあい(これらは妻が専業主婦の場合に多く利用されている)などを頻繁に利用していたが、これらは利用せずおもに親族からの援助だけに頼っている家族もあった。

家事サービスについては、外食・できあいの惣菜・食材の宅配などが、妻が職業を持っている・いないにかかわらず、頻繁に、しかも抵抗感なく利用されていた。例外はあるが、(妻が食事の支度をしなくてもすむよう)「土日は家族で外食」というのが、小さな子どもがいる家族によく見られるライフスタイルだった。それに対して掃除サービスやベビーシッターなど「人を家の中に入れる」サービスについては、費用や安全面などに関して抵抗感が見られ、利用している家族は多くなかった。

家事と育児の違いについては、男女とも、家事はかたづけ仕事でありそれ自体が楽しいとは言いがたいととらえていた。そして男性は、家事の水準を上げてより多く家事を行うことには消極的で、むしろ(費用や安全面に問題がない限り)家事サービスを利用して自分たちの労働を少なくすることに肯定的だった。しかし女性には、(特に土日には)家事を休みたい・手を抜きたいという意識がある一方で、もっと凝った料理を作りたい、家の中をきれいにしたいなど、高い水準の家事を自分の手で維持したい(あるいは維持すべき?)という意識も見られた。一方、育児については、男女とも、それ自体に楽しい側面があると感じており、家事とは違うものと認識していた。そして多くの男性は、時間さえあればもっと子どもと関わりたいと感じていた。

育児における父親の役割としては、「子どもと遊ぶこと、特に『男の子らしい』と分類される遊びをすること」をあげる人が多かった。また実際に父親たちは、平日は仕事のために子どもとはほとんど関われないが、休日においてはおもに「遊ぶ」という形で子どもと関わっており、(例外はあるが)父親はそれを大いに楽しんでいた。「子どもと遊ぶことが趣味」という言葉も、複数の父親の口から聞かれた。このような子どもと父親との関わりに対して、母親たちはおおむね満足していたが、その一方で多くの母親が「父親はもっと子どもを叱る役割を果たしてほしい」という意向も持っていた。

【関連する文献】

- 大和礼子, 2001, 「夫の家事参加は妻の結婚満足感を高めるか? —妻の世帯収入貢献度による比較」『ソシオロジ』46(1), 3-20.
- , 2002, 「外部化された家事・教育・ケアの利用」『現代家族にみる家事の実態・意味・感情に関する実証研究(質的調査の実施と分析)』平成12-13年度科学研究費補助金(基礎研究(C)(1)、#12610173)研究成果報告書, 代表者山根真理(愛知教育大学), 68-75.
- , 2005, 「夫の家事・育児参加は妻の夫婦関係満足感を高めるか?」, 日本家族社会学会第15回大会テーマセッション(2)「第2回全国家族調査(NFRJ03)の結果から」における報告(2005年9月10日, 島根大学).
- , 近刊, 「夫の家事・育児参加は妻の夫婦関係満足感を高めるか? —雇用不安定時代における家事・育児分担のゆくえ」(『第2回家族についての全国調査の報告書』(仮題)に収録予定).